

医療 介護 の

チームプレーで

1人の患者を守る

山形県鶴岡市

医療、介護のチームプレーで1人の患者を守る——。山形県鶴岡市の鶴岡地区医師会が運用し、電子カルテによって患者の診療情報を複数の医療関連機関で共有するシステム「Net4U」（ネット・フォー・ユー）が好評を呼んでいる。地区医師会主導で定着した「全国初の成功例」という電子カルテ共有システムを紹介する。

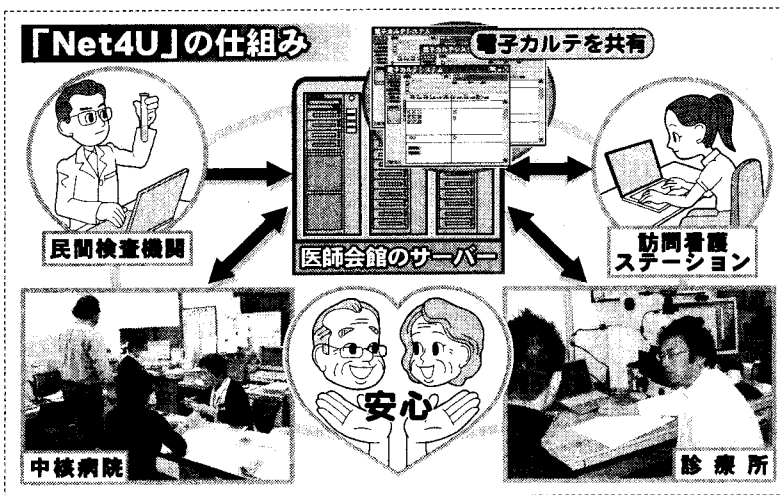
【この企画は随時、掲載します】

ネット・フォー・ユー
Net 4U

電子カルテで診療情報を共有

医者同士の連携での確・迅速に

1人の患者を町中のお医者さんで見守っているような安心感……。好評のNet 4Uについて、最近、診療所で診察を受けて知ったという本間英二さん(29)

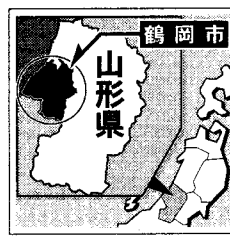


地域の底力



在宅医療において、主治医、訪問看護、訪問介護といった組織を超えた多職種による十分な情報共有が、必要である。

在宅医療において、主治医、訪問看護、訪問介護といった組織を超えた多職種による十分な情報共有が、必要である。



鶴岡市 山形県

は、「在宅介護など高齢社会に対応したシステムだ」と思う。さらに広がってほしいと期待を寄せている。Net4Uを運用する鶴岡地区医師会の遠藤貴恵さんは、「登録する患者数も着実に増え、喜びの声が多く寄せられて

9年目の運用で2万人超が登録「安心できる」と好評

具体的な事例

地域の医療連携に欠かせないツールとして定着しているNet4Uの活用例と効果は以下の通り。

<例1>看護師が訪問看護先のお年寄りの肌に湿疹などを発見。患部をデジタルカメラで撮影し、かかりつけ医の内科医に、写真とその記録を送信。内科医は、それらのデータを皮膚科の専門医に送信して相談。皮膚科の専門医が診察し、的確で迅速な治療ができた。

<例2>かかりつけ医が中核病院に高度な検査を依頼する際、これまで、①申し込み②検査③結果の受け取り——と3回の通院が必要だったが、電子カルテの共有で1回の通院で済んだ。また、薬の重複投与や、飲み合わせによる薬害の防止、重複検査を回避することも可能になった。

<例3>通院が困難な高齢者などに在宅ケアが必要となるケースに対し、患者の診療情報を共有することで、看護師が訪問時の状況を報告書として医師に郵送する必要がなく、医師側も指示書を郵送する手間も省けるようになった。

各分野の能力を結合し、質の高い医療を

秋山 美紀さん

慶應義塾大学総合政策学部専任講師

「Net4U」の仕組み

「Net4U」の活用例と効果